

次世代のための小児保健活動に期待する

評価委員 高石昌弘

(国立公衆衛生院・院長)

合計特殊出生率の低下傾向にみられるとおり少産時代が論議の的となっているが、このような背景をもった母子保健活動は常に次世代のための発展を意識して推進されなければならない。この点、「地域・家庭環境の小児に対する影響等に関する研究」班の研究報告には多くの期待がよせられていたわけである。3年間の研究の総括として報告内容を聞いたが、3年にわたる研究の集積の様子を踏まえ、年々、問題点の所在が明瞭になってきたことが分かる。とりわけ今回の研究発表会では、それぞれの分担研究者による緒言あるいは概要が分担研究課題ごとの research question との関連から大変分かり易く、母子保健行政への貢献の程度も推測し易かった。

高野分担研究者による「小児の発育発達に及ぼす地域・家庭の影響に関する研究」は小児の発育発達という母子保健活動の基礎的課題に地域・家庭の影響という視点から取り組んだものである。乳児・思春期ともに小児保健指導の基盤となる理想的な growth standard の作成に関し、longitudinal study がいかに重要かが検討され大きな成果が得られている。時系列解析による発育曲線の波動の問題も基礎的課題として検討された。地域・家庭の影響という視点から最も重要と思われる食行動からみた養育条件や総合的な保育条件に関する研究は小児保健指導のあり方に関わる重要課題である。研究の成果に基づき、life style との関連から今後一層の発展が望まれる。

田中分担研究者による「小児事故の現状と今後の課題」は子どもの life style と生活環境に直結した最近の重要課題である。小児の事故による死亡は小児期の死亡のなかで死因の第一位をしめているものであるが、死に至る事故はまさに氷山の一角であって、死に至らないまでも、障害を残す事故は極めて多いはずである。この意味で小児事故の現状を正確に把握することは極めて大きな意義を有している。やはり、この課題を検討するためには、事故に関連する要因や条件が多岐で複雑な点を考慮すると、事故の定義についての論議が重要である。Accident と Injury の相違も考慮すべきだろう。実態の総合的な把握と今後の対応の発展に大いに期待したい。

有馬分担研究者による「先天異常の頻度と対策に関する研究」は長期にわたる情報の積み重ねによって始めて成果がもたらされるものである。この意味では先天異常 monitoring の継続は極めて大きな意義をもつといわなければならない。最近のように、これまでにみられなかった新しい化学物質を含む生活環境が激しく変化している時、このような現状把握に関する継続的研究のもつ意義はますます重要とされている。母体の高齢化や喫煙率の上昇など先天異常発生リスク因子との関連は注目に値する。特定地域において継続的に追求されてきた monitoring をさらに今後も継続するとともに、このような研究の拡大とそれに基づくサービス事業強化に期待したい。

岡分担研究者による「小児の健康と養育に関する研究」は小児の健康と養育の相互関連を総合的に把握して小児保健指導の実際に結びつけようとするものである。研究の方法が多様であり、養育される子の側面と養育する養育者の側面の両面から両者の複雑な相互関連性を検討する必要がある。被虐待児の課題は事故と同様に氷山の一角に現われているものであり、水面下にはさらに多くの養育上の歪みが存在するはずである。養育上の父親の役割の歪みや対人関係の歪みに関する研究はそれぞれ新しい社会環境のなかでの人と人との関わりの問題の重要性を高めていくであろう。母子関係の絆を強めるための遊びの教室も、その開発に関する意義が高いと思われる。

以上、高野主任研究者による「地域・家庭環境の小児に対する影響等に関する研究」の4分担研究の概要について感想の一端を述べた。次世代を担う小児の健康の保持増進のため、各分野の研究のますますの発展を期待したい。